

# 令和4年度 上田市立傍陽小学校 自己評価シート

A: 達成できた B: 概ね達成できた C: 達成までに努力が必要である D: 達成までにさらなる努力が必要である。

評価方法 ア…教師自身による評価 イ…校長による評価 ウ…子どもの評価 エ…保護者からの評価 オ…学校関係者による評価

令和5年3月

学校教育目標		めざす子どもの姿（中期的目標）		総合評価					
ここに笑顔 どきどき挑戦 どんどん響き合う 傍陽の子	今年度の重点目標		成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策	
	1	太陽のような あいさつ・ことば	アイウエオ ・教師が率先して挨拶するとともに、児童会活動で挨拶運動を実践した。自分から進んであいさつをすることが課題。		○			・教師自ら見本となり雰囲気をつくっていくことを大事にしたい。また、気持ちのよいあいさつとはどのようなことかを考える場面も設定したい。 ・例えコロナ禍が継続したとしても、考え方の視点を変えることで価値ある活動へ昇華できることを、子どもと共に考えた活動で実証していきたい。	
	2	傍陽に遊び学んで思いをかたる	アイウエオ ・感染対策をとりながら原体験の活動を維持できるよう工夫したことで活気ある姿が随所に見られた。		○				
	3	支えあう仲間 個と協働の学び	アイウエオ ・タブレット端末を使った活動に教え合う姿が多く見られた。		○				
領域	対象	評価項目	評価の観点	評価方法	A	B	C	D	
学校教育	学習指導	自ら課題を持ち追究する	子ども自身が課題を持って追究できるよう授業や単元を工夫し指導を行ったか。	アイウエオ ・児童の実態を正確に捉えられるようになってきたため、児童がつまづきそうなところを踏まえた授業計画を立てたり、追究したくなる導入ができるようになってきた		○			・課題把握と意欲が持てる導入は、試しても試してもゴールが見えないほど、やり方が無限にあるように感じる。今後も様々な方法を試して子どもの反応をみながら工夫していきたい。
		互いの考えを聞き話し合い、自分の考えを深める	課題を解決するために、互いの考えを伝え合い話し合うことを通して、自分の考えをさらに深めていくことにつながる指導を行ったか。	アイウエオ ・グループで考えを話し合う活動を通して、理解が深まったり、人は自分の考えとは異なる考えを持っていることに気付く姿が見られたが、自分の考えを深めるには至っていない。		○			・伝え合う活動を仕組むことはもちろんだが、伝え合う内容や状況を工夫して、自ら「伝えたい」と思って話し合いの活動に取り組めるような工夫をしたい。
		表現を通した心の解放	多様な表現方法に触れ、自らの表現をしながら、自分の良さを発揮できるよう指導を行ったか。	アイウエオ ・自分の思いや感じたことを、書くこと、話すことで言語化することを意識した授業構想をした。ICTの活用の際には、それを使って伝え合うことができるよう工夫した。		○			・自分の考えを「伝えたい」と思う動機付けを行いたい。 ・毎日の中で良さをを見つけるのが難しいと感じ「ない」「みつけれない」という子に対し、どういうところを見ていったらよいかを示していく必要がある。
		「わかった」「できた」が実感できる授業づくり	授業のユニバーサルデザイン化や、授業の振りかえりなどを通して、学習の中で充実感や満足感を得られるような指導を行ったか。	アイウエオ ・具体物をできるだけ用意したり、身の回りのものに置き換えてたりして、できるだけ身近に感じられるように準備をすることができた。		○			・読むこと、書くこと、聞くこと、話すことのどこにつまづきがあるのかを分析的に把握する。 ・学級の実態に合ったUD化を探り、授業づくりに活かす。
生徒指導	挨拶・返事・感謝の言葉	教師が子どもと関わりながら、「はい」の返事・「ありがとう」の感謝の言葉を伝え合い、コミュニケーションに結びつける指導を行ったか。	アイウエオ ・「ありがとう」は意識的に教師の発言を多くしている。子どもたちに返事と感謝の言葉について特別指導したことはないが、子どもたちは自然と身についているように感じる。		○			・成長の過程や活動の広がりに合わせて変化していく要求や困り感を伝える言葉、語彙を増やしていかれるよう支援したい。 ・児童を一人の人として、考えを聞いて尊重する姿勢を常に持ち続けたい。 ・返事や感謝の言葉が必要であるのに出ていない時はないか、意識して子どもに伝えることができる技術を養う。（言語での表現能力の向上、言葉の使い方）	
	自他を大切にし、共に伸びる喜び	互いを認め合い、支え合う人間関係を人権教育の視点に立って指導したか。	アイウエオ ・授業や日々の生活で、個に応じた対応をし、また、個に応じた目標を持たせるようにした。個によって違う中で、それぞれの努力を認めるようにした。その中で、子どもたちも違いを認め合い、支えあう姿がさらにみられるようになった。		○			・到達目標を個々に設定し（または自分で考えさせ）個に対応した指導をしていきたい。また、個に対応する姿を教師が示したい。	
学校運営	学校づくり	家庭との連携・コロナ禍の状況に応じた対応	子どものよりよい成長を願うことを基盤に、保護者との連絡を密にし共通理解を形成しながら教育活動の充実が図ることができたか。	アイエオ ・必要な家庭には連絡をし、共通理解を形成することに努めた。その際、物事の善悪を判断したような話し方にならないよう気をつけた。		○			・気になった児童の姿があった際には、家庭での様子を聞きつつ、一緒に子どものことを考えていく姿勢で取り組む。問題が起こった時だけでなく、良いことがあった時にも保護者に伝えるようにする。
			コロナ禍にあり、状況に応じた学習を仕組み、教育活動の充実が図ることができたか。	アイエオ ・Googlemeetを使用し、学校に来れない状況でも、オンラインで授業を見せる等、家庭と連携を取り学習を進められた。 ・換気をしっかり行い、コロナ禍であってもグループ活動などが行えるようにした。		○			・今後も、コロナ禍であっても教育活動を充実させていけるよう、コロナ対応のルールを守りつつ、工夫して取り組んでいく。 ・長期の休みが必要になった場合はオンラインで対応できるよう準備していく。
	情報発信	学校の願いや児童が活躍している様子等が伝わる情報が発信できたか。	アイエオ ・学年だより等で写真を多く使用するようにして、子どもたちがどのように学習に取り組んでいるのか、その様子や作成した成果物を載せ、伝えることができた。		○			・子どもの様子を伝えるほか、学校の願いや活動のねらいなども伝えていくことで、発信の質を高めていく。また、HPの更新も頑張りたい。	